

平成 26 年 12 月 4 日

公益財団法人 建築技術教育普及センター

## 平成 26 年木造建築士試験 「設計製図の試験」標準解答例の公表について

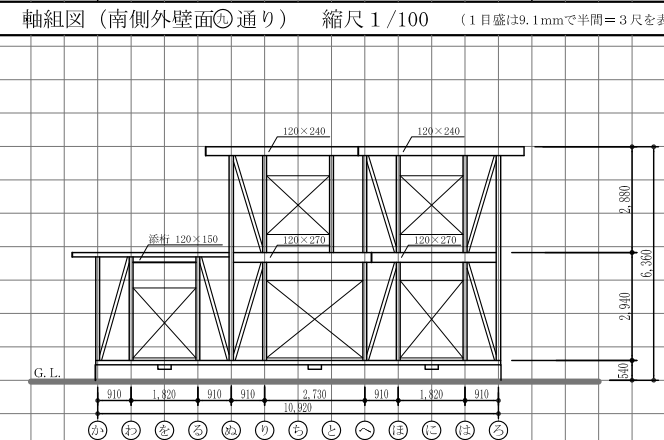
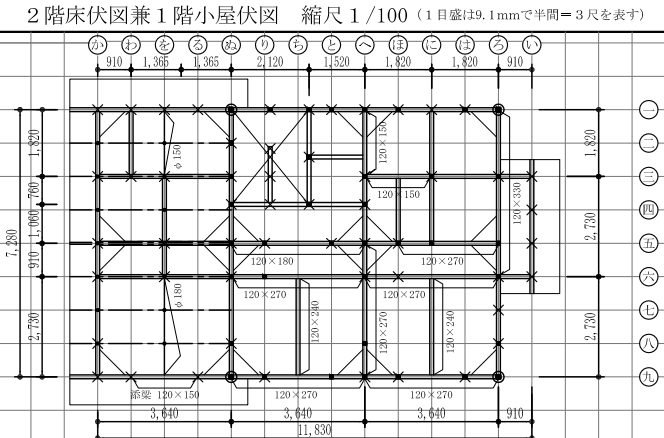
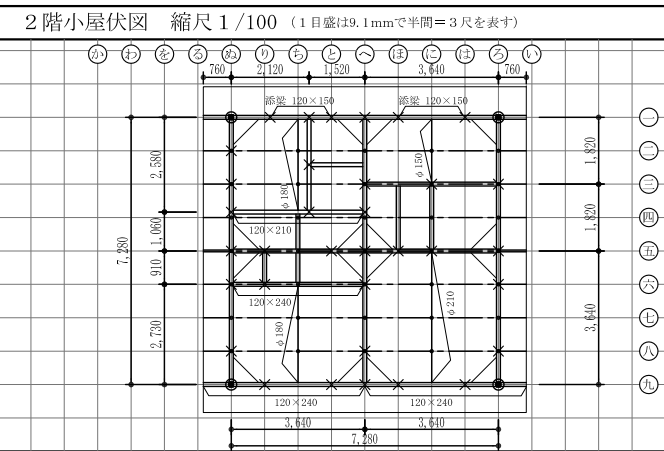
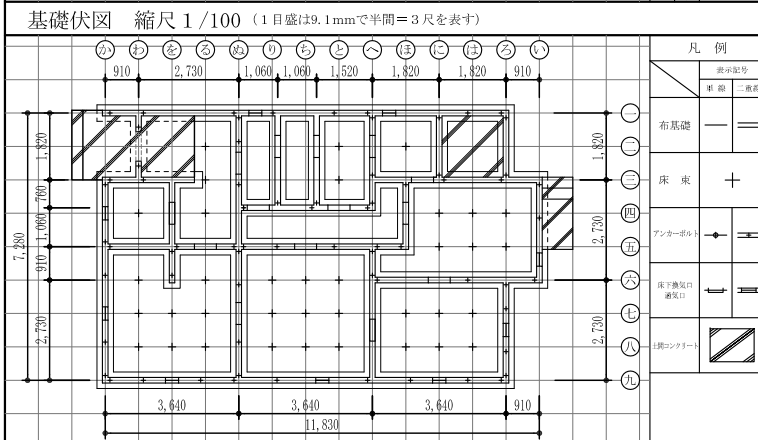
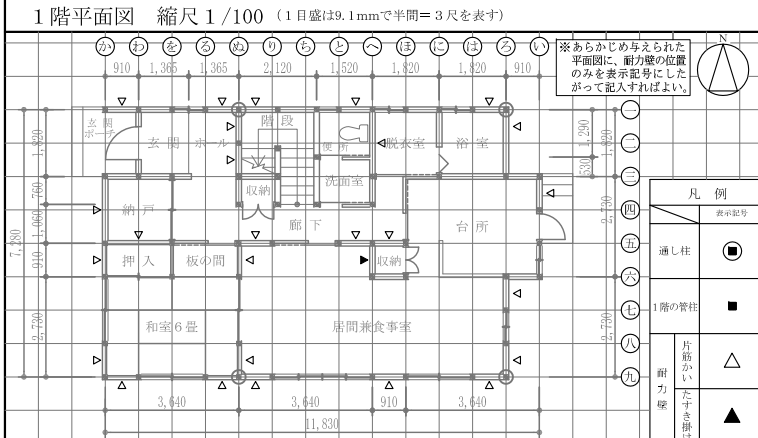
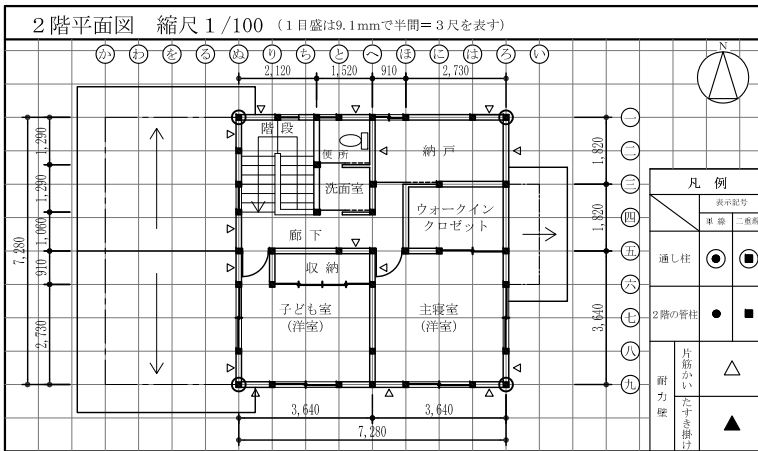
平成 26 年 10 月 12 日（日）に実施されました標記試験の標準解答例（合格水準の標準的な解答例をいう。）を下記のとおり公表します。

木造建築士試験は、建築士法第 13 条及び第 15 条の 6 の規定に基づいて、全国 47 都道府県の指定試験機関である当センター（理事長 浅野 宏）が実施しています。

### 記

1. 標準解答例は、試験の透明性を高めるとともに、建築士を志す者に対して、習得すべき知識及び技能（木造建築士として備えるべき「建築物の設計に必要な基本的かつ総合的な知識及び技能」をいう。）の目安を示す資料として、当センターに設置された試験委員会で作成されたものです。この標準解答例は、当センター本部・支部及び都道府県建築士会の事務所に掲示するとともに、インターネット上の当センターのホームページ（URL <http://www.jaeic.or.jp/>）にも掲載します。なお、標準解答例は、合格水準の標準的な解答例を示すことを意図したものです。
2. 柱杖<sup>はしらづえ</sup>図及び矩計図については、公表することにより、解答パターンが定型化するなど、適正な試験実施に影響を及ぼすことが想定されることから、公表しておりません。
3. この標準解答例を転載・複製等する場合は、当センターの許諾を得てください。
4. この標準解答例に対する質問・問合せについては、一切お答えいたしません。

標準解答例



凡例

表示記号	断面寸法 (mm)
通し柱	105×105
2階の管柱	105×105
柱 (正角材)	105×105
柱 (平角材)	105×105
柱 (丸太材)	105×105
火打梁	90×90
棟木・小梁	90×90
母屋・小梁	90×90
屋根仕上	平形彩色スレート葺
床板勾配	4/10

凡例

表示記号	断面寸法 (mm)
通し柱	120×120
1階の管柱	105×105
2階の管柱	105×105
1階と2階が異なる管柱	105×105
柱 (正角材)	120×120
柱 (平角材)	120×120
柱 (丸太材)	120×120
火打梁	90×90
棟木・小梁	90×90
母屋・小梁	90×90
屋根仕上	平形彩色スレート葺
床板勾配	4/10

凡例

表示記号	断面寸法 (mm)
布基礎	120×120
土台	120×120
通し柱	120×120
柱 (正角材)	120×120
柱 (平角材)	120×120
柱 (丸太材)	120×120
筋かい	45×90
開口部	
離手位置	

主要構造部材表 [木拾い書]

部材名称	断面寸法 (mm)	定尺長さ (mm)	本数	断面寸法 (mm)	定尺長さ (mm)	本数	断面寸法 (mm)	定尺長さ (mm)	本数
脚 差	120 <sup>㉔</sup> ×330	5,000	1	120 <sup>㉔</sup> ×240	3,000	2			
	120 <sup>㉔</sup> ×270	4,000	5	120 <sup>㉔</sup> ×180	4,000	1			
桁	120 <sup>㉔</sup> ×270	3,000	1	120 <sup>㉔</sup> ×150	2,000	2			
	丸太梁 φ180	3,000	1	添梁 120×150	2,000	1			
1階小梁									
	丸太梁 φ150	2,000	1						

- 標準解答例は、試験の透明性を高めるとともに、建築士を志す者に対して、習得すべき知識及び技能（木造建築士として備えるべき「建築物の設計に必要な基本的かつ総合的な知識及び技能」をいう。）の目安を示す資料として、当センターに設置された試験委員会で作成されたものです。この標準解答例は、当センター本部・支部及び都道府県建築士会の事務所に掲示するとともに、インターネット上の当センターのホームページ (URL <http://www.jaeic.or.jp/>) にも掲載します。なお、標準解答例は、合格水準の標準的な解答例を示すことを意図したものです。
- 柱状図及び矩計図については、公表することにより、解答パターンが定型化するなど、適正な試験実施に影響を及ぼすことが想定されることから、公表しておりません。

個人利用の目的以外には、当センターに無断で転載・複製することを禁じます。